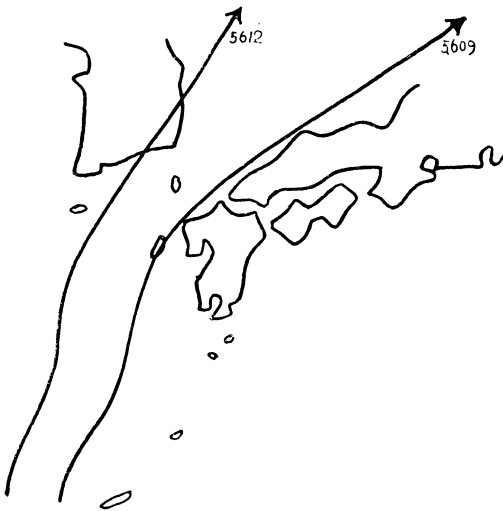


らみて北北西の風が卓越しているものとみてよい。3例あって3例とも雨の捕集は適当であった。

第6図は上記の適例の一つであって1956年15号台風による降雨の等雨量線図である。鳥屋山の雨量は113mmであった。

(3) 台風（九州西方を北上）

台風が南方海上から北上して九州西方を通り対馬海峡、日本海へ抜けたもので、この期間中2例あって第7図に示すとおりである。鳥屋山付近の風向はこれら台風の進行状況からみて南～南西の風が卓越しているものとみてよい。2例あって2例とも雨の捕集は不適當であった。



第7図 台風進路図

第8図は上記の不適例の一つであって1956年9号台風による降雨の等雨量線図である。鳥屋山の雨量は42mmあって周囲の等雨量線からみて100mm少ない捕集であった。他の1例では40mm少ない捕集であった。

7. むすび

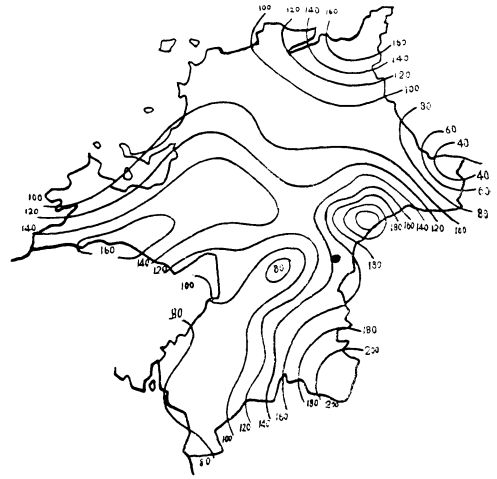
鳥屋山無線ロボット雨量計の捕集した雨量について簡単な調査をして次の結論を得た。

【新書紹介】 気候の変動

土屋 巖 著

B6版 210頁 恒星社厚生閣発行 定価 420円

昨年日本付近における異常な暖かさ、今年初めの持続的乾燥など、天候に関する報道がゆきとどいてくるとさらに気候変動について単なる思惑だけでなく、身近に感ずる時期にきているような気がする。一般の人々についても恐らくそうであろう。気候の変動となると、その変動の期間や規模によつて原因も異なり、また未解決の



第8図 台風5609による等雨量線図

隣接観測所と比較して、鳥屋山は630mの高度にあるにもかかわらず、その捕集した雨量は特に少なく平均して70～80%にすぎない。これは設置点の地形によるものと思われる。台風の進路による降雨量からみて、その時の主風向で適、不適がある。

すなわち、

- (1) 北よりの風の卓越する時は雨の捕集は適当である。
- (2) 南よりの風の卓越する時は不適當である。

以上の事から、鳥屋山の雨量を利用する場合には、前線、低気圧、台風等の通過による風向の変化に十分注意すべきである。

参考文献

- 1) 気象庁観測部, 1958: 無線ロボット雨量計設置点の適否の検討について, 観測技術打合せ資料(昭和33年)105.
- 2) 気象庁統計課, 1960: 「ひと雨」のとり方について, 測候時報, 第27巻第4号, 116.

問題も多い。特に地質時代からの変動には、天文、地質、生物、年代学、海洋などいろいろの分野の総合した知識が必要とされてくる。

土屋氏の上記著書は、気候変動に関連する分野の総合した知識、原因論や気候改造について、最近までの研究成果を平易に、要領よくまとめている。もう少し詳しく書いてほしいところもあるが内容全体のバランスとか一般読者のためまえから省略したのであろう。図表の選択にも非常に気をくばり貴重な図表が豊富に掲げられている。気象関係者にも大いに参考になることが多い。